



NPO 法人 社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)ご案内

2010年5月現在

1. SIF-Japan とは

企業を取り巻く今日の世界状況について

グローバル化の進展とともに、多国籍の巨大企業群が出現しています。また、国内企業においてもサプライ・チェーンは全世界に広がり、企業のグローバル化は、近年その速度を急速に増しています。こうした現実に対して、1999年コフィー・アナン国連事務総長(当時)の提唱によるグローバル・コンパクト¹に見られるように、企業が社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)を果たすことについての要望や期待が高まっています。これら社会的な情勢を反映し、単に法律を遵守するに留まらず、独自の経営方針を確立した上でCSRに取り組み、またその進展度について広く社会一般に公表しアカウンタビリティ(説明責任)を果たそうとする企業が増えてきています。

SRIの役割と世界における状況

こうした社会的責任を積極的に果たす企業に優先して投資をしようとする社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)という考え方があり、欧米では以前から行われてきましたが、近年、急速に拡大、発展しています。

特にEUでは、高止まりを続ける失業率や今後の加盟国拡大²等に対応すべく、そのCSRとSRIを推進することがEU並びに加盟各国の社会経済政策の両輪となっています。例えば、2001年の欧州CSRグリーンペーパーや、SRIを推進するための基盤作りとして加盟国の中では、英国の年金法の改正、フランスの情報公開義務化などが進んでいます。

2006年4月には国連は責任投資原則(PRI)³を公表し、金融機関や機関投資家にESG(環境、社会、ガバナンス)に配慮することを促しています。

SIF-Japan 設立の背景・目的

日本においても、欧米には大きく遅れましたが、環境保全を重視する企業に投資しようとする「エコファンド」が1999年に登場し、さらに2000年には、環境だけでなく雇用・消費者対応・市民社会貢献等の社会性も勘案したファンドも登場しました。

そうした状況の中で、さらなるSRI推進について中立的で欧米のソーシャル・インベストメント・フォーラム(SIF)⁴のような役割を果たすフォーラムを立ち上げるべく模索し、2001年始めから月例勉強会を中心にSIF-Japanとして活動してきました。2003年、投資家や事業会社、一部の金融機関などの応援で資金面においても展望が開ける状況となってきたと判断し、NPO法人の設立に着手。2004年6月、法人格を取得しました。

「社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)」は、社会的責任投資に関係する人々、機関、また興味を持たれる方々にインタラクティブな意見交換、研究をする場を提供するとともに、企業等の情報公開を促し、日本におけるSRIの健全な発展に寄与することを目的としています。

¹ <http://www.unic.or.jp/globalcomp/pdf/gcbook.pdf>

² <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/map.html>

³ <http://www.unpri.org/principles/japanese.php>

⁴ <http://www.socialinvest.org/>



SIF-Japan の使命・役割

直面しているさまざまな問題の解決に貢献し、SRI 市場の拡大や、真に社会性のある企業、団体、組織、プロジェクトに健全な資金の流れを向けていく社会システムの確立に資することを使命としています。

エコファンド以後数多くのファンドが登場していますし、さらには SRI の別の形である地域開発投資などについても取り組みが始まっています。しかしながら金額的にはファンド全体で数千億円にとどまっており、二百数十兆円の米国はおろか、数十兆円の欧州とは大きく隔たっています。その原因の解明は SIF-Japan の責務の一つであると考えています。

また、企業では環境報告書の発行が急速に普及しつつあり、最近では、その 8 割以上の企業が、社会性についての報告も含むサステナビリティ(CSR)・レポートへの切り替えを行ってきていますが、さらに世界の CSR と SRI の動きに関心を持ち、積極的に情報収集や情報発信を図ろうとしているところも多数見られるようになりました。SIF-Japan としてはこれらについても、情報基地として積極的に応えていく必要があると考えます。

ただ、日本の社会全体においては、環境やサステナビリティ、CSR、SRI 等についての認識度は浸透しつつはあるものの、まだ必ずしも高くはありません。特に、SRI のキープレイヤーたる投資家や金融機関の間で、SRI の可能性と役割についての認識の浸透に遅れが目立ちます。浸透の遅れにはさまざまな要因が考えられますが、その一つに、投資家と運用会社、スクリーニング会社など、関係者間のコミュニケーション不足が挙げられます。欧米においては、古くから情報交流などを図る SIF が設立されていますが、これまで日本にはありませんでしたので、SIF-Japan としては、設立を機に一層の啓発活動に努めるとともに、関係者間のコミュニケーションの場を用意していく所存です。

2 . 活動概要

1) 活動目的

目的：日本における社会的責任投資 (SRI) の普及・発展

手法：

- ・ 社会的責任投資の利害関係者（投資家、運用会社、スクリーニング会社、企業、その他関心を持つ方）のコミュニケーションの促進
- ・ SRI に関する情報開示の促進
- ・ SRI に関する研究
- ・ 企業評価の枠組みに関する研究
- ・ 投資家による提言およびアクション

2) 活動概要（将来活動も含む）

- ・ セミナー及びシンポジウムの開催
- ・ 研究会（分科会）等
- ・ 研究報告書発行等
- ・ メールマガジン、ホームページによる啓発、SRI 情報データベースの構築
- ・ ソーシャルベンチャー支援等



3) これまでの活動

2003年	8月	理事就任打診および入会広報開始
2003年	11月	設立のための発起人会（設立総会）開催 事業開始
2004年	2月	NPO 法人申請 定例勉強会開始
	同	ホームページ開設
	3月	メールマガジン配信開始
	6月	特定非営利活動法人（NPO 法人）格取得
	12月	法人格取得記念シンポジウム開催
2005年	2月	「企業スクリーン研究会」発足
	3月	第2期定例勉強会開始
	8月	学生部会「SIF-Japan Students」発足
	9月	「日本におけるSRI調査機関の現状2005」発表
	同	「コミュニティ投資研究会」発足
	12月	日本政策投資銀行共催シンポジウム開催 「コミュニティ投資研究会の開催と事業モデルの提言」に
	同	三井物産環境基金助成確定
2006年	2月	第3期定例勉強会開始
	5月	SIF-Japan Students 学生向けSRI入門セミナー開催
	6月	コミュニティ投資研究会セミナー開催
	11月	日本政策投資銀行共催シンポジウム開催（テーマ：責任投資原則）
	12月	SIF-Japan Students 「就職活動におけるCSR意識調査アンケート'06」 ⁵ 発表
2007年	2月	定例勉強会 CSRとSRIの架け橋 ～人間を大切に作る企業はなぜ長期的に企業業績の向上が可能になるのか 「本業によるボランティアが地域と従業員の幸せと強固な経営基盤を作る」
	3月	SIF-Japan 主催 / SIF-Japan Students 企画セミナー 『学生発！これからの社会を創る金融教育 ～「社会的責任投資（SRI）」から見た金融教育のあり方～』
	4月	定例勉強会 SRI事情・入門編'07
	5月	FTSE William Oulton 氏 来日講演 『国際的な責任投資の特徴・傾向』
	6月	「SRI定義チーム」発足
	同	「SRI法制化研究プロジェクト」発足
	同	「SRI年報チーム」発足
	7月	定例勉強会 SRI最新事情 実践編 ～SRIを巡る二つの議論 「責任ある投資のための企業評価基準」
	同	SIF-Japan Students 横浜国大で出張授業 「社会と会社を育てる投資 SRI入門編」

⁵ http://www.sifjapan.org/students_csr_enq060612.pdf



2007年	8月	定例勉強会 SRI 最新事情 実践編 ~ S R I を巡る二つの議論 「SRI のメインストリーム化を目指す運用手法」
	9月	コミュニティ投資研究会ワークショップ 「荒川流域ネットワークの試みに学ぶ」
	10月	コミュニティ投資研究会（CAC 社会起業家研究ネットワークとの共催） 「コミュニティ投資とは ~ 米国コミュニティ投資機関 N F F に学ぶ」 英語版法人案内をウェブに掲載
	10 ~ 11月	SIF-Japan Students によるアンケート調査 「大学生の S R I 意識調査アンケート」
	11月	定例勉強会 C S R と S R I の架け橋 ~ 人間を大切に作る企業はなぜ長期的に企業業績の向上が可能になるのか 「環境と生産性と人間性 全てを向上させる向上の具体的取り組み」
	12月	シンポジウム開催 「広がりを見せる S R I 最前線」
	同	「日本 S R I 年報 2 0 0 7 」発表
2008年	2月	SIF-Japan Students 「大学生の S R I 意識調査アンケート 2 0 0 7 」分析結果発表
	3月	会員向けに第 2 1 ・ 2 2 回定例勉強会講演録の配信
	同	（財）トラスト 6 0 助成決定
	4月	アースデイ東京「エコ金融エリア」出展（Students）
	同	定例勉強会 SRI 事情・入門編 ' 0 8
	7月	「日本 S R I 年報 2 0 0 7 」英語版作成
	同	定例勉強会 株主提案 ~ 株主オンブズマンの活動 ~
	8月	定例勉強会 コミュニティ投資 ~ 地域での生活を持続可能にする momo の 取り組み ~
	同	定例勉強会 スクリーン運用 ~ 運用会社と企業との対話を可能にする CSR の評価方法について ~
	同	金融庁とミーティング
	11月	金融庁とミーティング
	同	シンポジウム GC-JN、UENEP-FI、SIF-Japan と共催 「サステナブルな社会構築に向けて ~ 企業と投資家に求められること ~ 」
2009年	1月	会長 後藤敏彦、代表理事 河口真理子就任
	2月	定例勉強会 企業価値を「創造・向上」する CSR 担当部の実践活動
	3月	CDSB（The Climate Disclosure Standards Board）研究会
	4月	シンポジウム開催 大和証券グループ、ニッセイアセットマネジメント、 T&D ホールディングス協賛 「サステナブルファイナンス ~ あなたのお金をサステナブルな社会作りに ~ 」
	同	金融庁とミーティング
	同	定例勉強会 SRI 事情・入門編 ' 0 9
	6月	早稲田大学大学院ファイナンス研究科と提携した CSR および SRI 関係の パイロット講座担当(計 6 回)



	同	定例勉強会 我々が望む社会と CO ₂ 削減コスト及び削減技術開発との関係
	8月	定例勉強会 企業と地域社会を仲よくする「エゴなエコ」の推進活動
	同	韓国から環境問題(CSR、ファイナンス、排出権等)に関する調査団来日。意見交換会及び日本での訪問先をご紹介
	11月	定例勉強会 銀行の「本業に依拠した CSR」とは何を实践するのか
	同	PRI 署名期間と合同ミーティング
2010年	1月	ドイツ環境省が、SD-KPIs(持続可能な開発の重要業績評価指標)を発表、SIF-Japan 運営委員も参加
	同	「日本 SRI 年報 2009」発表
	4月	定例勉強会 SRI 事情・入門編 '10
	同	「日本 SRI 年報 2009」発刊記念シンポジウム開催 (株)東京証券取引所グループ後援 「日本の SRI 市場の現状と課題、そして期待」
	同	早稲田大学大学院ファイナンス学科提携講座(正式科目)担当 14回

4) 今後の活動予定

今後例年の活動(定例勉強会・シンポジウム開催、メールマガジン発行、SRI 年報のデータ情報収集・データ編の更新)のほかに、
金融機関等とのコミュニケーション推進
SRI 年報の改定
を予定している。

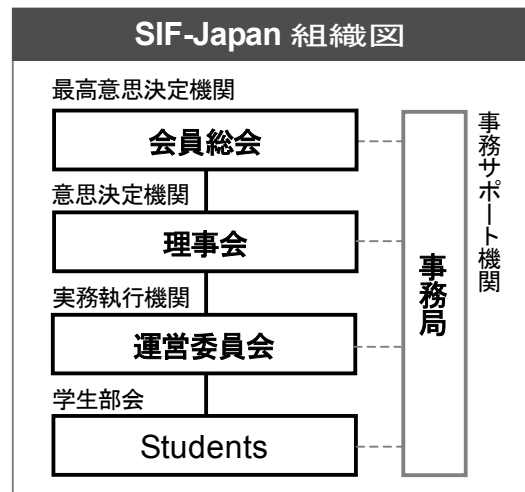
3. 組織概要

1) 会組織構成

全会員による総会、総会で選任された理事による理事会、理事会で選任された運営委員による運営委員会、運営委員会管理下の下部組織として学生会員と学生ボランティア有志で組織する Students から成る。

会長...後藤敏彦

代表理事兼事務局長...河口真理子



2) 会員構成および年会費

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| (1)一般法人 | 一口 ¥100,000 × 3 口以上 = ¥300,000 以上 |
| (2)金融ホールディングカンパニー及び以下(3)~(5)以外の金融機関 | 一口 ¥100,000 × 5 口以上 = ¥500,000 以上 |
| (3)地方銀行 | 一口 ¥100,000 × 3 口以上 = ¥300,000 以上 |
| (4)投資信託委託・投資顧問・投資会社・信用金庫単独 | 一口 ¥100,000 × 2 口以上 = ¥200,000 以上 |
| (5)信用組合 | 一口 ¥100,000 × 1 口以上 = ¥100,000 以上 |



(6) 公的機関・中間機関	一口 ¥100,000 × 1 口以上 = ¥100,000 以上
(7) NPO / NGO・有識者・個人(*)	一口 ¥ 10,000 × 1 口以上 = ¥10,000 以上
(8) 学生	一口 ¥ 5,000 × 1 口 = ¥5,000

社団法人・財団法人は、公的機関に準じる。

国外法人会員の年会費は、上記の(1)～(6)に該当する法人についてはそれぞれ国内法人会員の会費の半額とする。

この場合国外法人会員とは日本国外に本部があり、主として日本国外で活動する企業または団体をいう。

国内法人会員の年会費区分は原則として上記の通りとするが、平成21年3月11日からは本区分にかかわらず年会費は「一口100,000円以上」とする。

ただし上記(1)～(4)の口数に応ずる会員は以後プレミアム会員とする。

年会費の有効期間は入会日から1年間(*1)とするが、個人(含む有識者)会員についての初年度については、入会日に拘わらず当該年の12月までとし、会費を次の通りとする。

次年度以降については毎年1月1日より1年間とする。

(個人新規会員の初年度会費)

1月～6月入会者 10,000円 7月～12月入会者 5,000円

(*1)入会日の認定

法人・・・申込書に記入された日

個人・・・会費を振り込んだ日

3) 会員特典

SIF-Japanにご入会いただくと、次の特典があります。

- ・ SIF-Japan 主催イベントの参加費無料
個人会員およびNPO/NGO会員は1名、法人会員は3名まで無料
- ・ SIF-Japan 主催イベントに優先案内
- ・ 「SRI マスコミレポート」配信サービス 現在休刊中
- ・ セミナー資料送付および講演録配信サービス
- ・ 運営委員として SIF-Japan 活動への参画
- ・ 法人会員についてホームページのトップページに法人ロゴ掲載
- ・ 法人プレミアム会員については上記のほか SIF-Japan 主催イベントにおける案内パンフレット等への法人ロゴ掲載および参加人数、参加費につき優遇
- ・ クローズドな勉強会への優先参加
- ・ 理事候補として被推薦

4) 事務局

- ・ 事務局は総会、理事会、運営委員会の事務的業務をサポートする。
- ・ 暫定的に株式会社クレアン⁶内に置き、資金その他の条件が調った段階で独立した事務局を設置する。

⁶<http://www.cre-en.jp/>



ご入会お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)事務局

〒108-0071 東京都港区白金台 3-19-6 白金台ビル 5F

Mail: contact@sifjapan.org 電話:03-5423-1512 FAX:03-5423-6921

URL: <http://www.sifjapan.org/index.html>